

shimajiken 研究部だより

2014—第3号

発行年月日

2015.3.5

発行元

島事研研究部



平成 26 年度も残すところわずかとなりました。年度末今年度の各種処理、来年度の準備と忙しい日々が続いているところと思います。

さて今回の研究部だよりでは、先の県事研セミナーで示した第五次研究中期計画について、より理解を深めていただきたいと思います。

会員の皆様には、研究の内容を理解していただき、マネジメントシートの利用、キャリアステージを意識して日々の業務の見直し改善の手助けとなればと思います。

来年度から第五次研究中期計画が始まります！！

研究テーマ

学びの質の向上につながる学校事務の展開

～教育活動へのより深い関わりをとおして～

第四次研究中期計画では、教育課程づくりに参画するための 2 本柱として①学校財務マネジメント能力の向上、②情報共有によるつなぐ役割への発展を設定しました。取り組む中で財務・情報という領域における事務職員の役割の重要性を改めて確認することができました。

第五次研究中期計画では、さらに取組の質を高め、広げ、応用できるものとし、経験年数やキャリアステージの違い、学校規模・市町村の環境等の課題に応じて、柔軟に取組を進めていくことができるような研究を進めていきたいと考えています。

研究の方法

1. “学びの質の向上” についてのイメージ化

◎各学校、各市町村・事務グループの実態に合わせてイメージ化を行う

学校事務職員は、授業等の直接的な関わりを持つことはありませんが、財務・情報等の職務をとおして教育活動に影響をもたらす間接的な関わりを持つことができます。間接的であるからこそ、ゴールへのイメージが大切です。イメージが明確であればあるほど関わり方、取組方法の幅が広がり、“学びの質の向上”につなげることができるでしょう。そのためにも、まずは学校の中、各市町村内外の事務グループで“学びの質の向上”について話をしてみましょう。

一人で考えていても行き詰まるばかり。たくさんの人と意見を交換していくことが、明確なイメージを持つための第一歩です。



2. 教育活動へのより深い関わりをとおした目標設定

◎ ①安全・安心な教育環境の整備、②地域とともにある学校づくりの推進という 2 つの領域から目標を設定する
第四次研究中期計画で取り組んだ財務マネジメント能力と情報共有によるつなぐ役割を発展させ、より具体的な取組に広げていきましょう。

3. 課題解決のための共通視点の設定

◎喫緊の課題である世代交代を視野に入れた「前向きな世代交代～実務を通じた指導・育成～、～実務を通して感じる成長～」を共通の視点として取り組む。

世代交代をマイナスイメージではなく、指導することで得られる学びや気づき、教えられ挑戦することで得られる達成感・成長感を大切に、経験年数や年齢、立場に関わらず、誰にとってもプラスの要素が持てるような前向きな世代交代を視点に入れて研究を進めましょう。

4. 具体的な取組方法

◎経験やキャリアステージに応じた達成感・成長感・有用感・仕事自体の楽しみを感じることができるよう研究を進めていく。

第四次研究中期計画の成果物として作成した『わくわく実践ナビ～学校事務職員目標達成に向けて～』を活用してみてください。まずは、アプローチリストを参考に、これまでにどんな取組をされてきたのか見てみましょう。その中にこんなこともできるのか、これならまねできるかもしれない、もっといい案がひらめいた、など思えることがあるかもしれません。

わくわく実践ナビ

～学校事務職員目標達成に向けて～



平成27年度からは、第五次研究中期計画が本格的に始まります。

第五次研究中期計画を始めるにあたり、実態を把握するためのアンケート調査を行うことを検討しています。その際にはお忙しいことと存じますが、皆様のご理解ご協力をよろしく申し上げます。



◆島事研ミッション

「島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する」

◆島事研研究テーマ

学びの質の向上につながる学校事務の展開
～教育活動へのより深い関わりをとおして～

安全・安心な 教育環境の整備	地域とともにある 学校づくりの推進
-------------------	----------------------

前向きな世代交代

～実務をとおした指導・育成～
～実務をとおして感じる成長～



キャリアステージ

教育活動へのより深い関わり

島事研ビジョン

編集後記

学校事務職員のあるべき姿。それはどんな姿なのでしょう？
めざす姿を達成するための研究。あるべき姿とめざす姿はどう
違うのでしょうか。時代の流れとともに求められることが変わっ
てきているのも現実。ただただ、自分の目指す姿を具体的にイ
メージして邁進するしかないと思うところです。（文責 兎玉）